

週刊新潮

4月19日号
400円



15

一夜で300億円が消えた野村證券 恐怖の金融商品の後始末



株式市場が不安定になれば上昇し、落ち着けば下がるといふ数値をこ存じだろうか。投資家の心理がリアルタイムで分かることから使われるようになったが、その投資家を「恐怖のどん

底」に陥れたのが、VIXを使った金融商品だ。

「私も20年以上いるんな被害を見てきましたが、これほど瞬時に大金が消えてしまったのは初めてです」

そう呆れるのは、証券取引のトラブルに詳しい本杉明義弁護士だ。

同弁護士が問題にしているのは、アメリカのVIXを対象にした「VIXベアETN」(以下、VIXベア)という金融商品だ。正確に言うと売買できたのは2月までで、4月から強制的に払い戻しが始まっている。どんなものなのか。

経済部の記者が言う。

「VIXベアの『ベア』とは、VIXと逆の動きをするといふ意味です。つまり、VIXが上がると、逆に値下がりするように設計されている。野村ホールディン

グスの欧州子会社が発行し、日本では2015年3月に上場されています。直近では時価総額で320億円ほどに膨らんでいました」

それが「突然死」したのは2月6日のこと。米ダウ平均株価が急落した翌日だった。

「VIXベアには、『早期償還条項』(別名・即死条項)というのが付いており、VIXが前日終値から20%上昇すると、運用そのものが終わりになる。当日は、恐怖指数が急騰したことから、VIXベアもそこで自動終了となってしまうのです(同)

「調べてみると、営業マンでさえこの商品の仕組みを知らずにVIXベアを売っていたケースがかなりありました。それも、野村証券をはじめ大手証券会社の営業マンです。だから、早期償還条項についても説明していないケースが多くある。取引そのものが無効になる可能性があります」

何とも乱暴な金融商品なのだが驚くべきは損失率で、「VIXベアの損失率は96%。償還されても顧客には4%しか戻ってきません(同)時価総額でざっと300億円が消えたことになる。

「二元の指標と反対の値動き

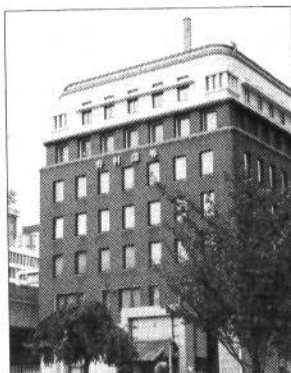
虎の子が消えた

かくして、朝起きてみたら「虎の子」が雲散霧消した顧客が続出。証券会社に

「二元の指標と反対の値動き

「二元の指標と反対の値動き

をする。ベアの金融商品はカラ売りをするのでハイリスクなのです。大手証券がそんなものを作った一般投資家に売るのはいくらも問題ですよ」



鉄火場のような「商品」を作っていた

把握しております。当社を通じて保有されているお客様に対しては、本件発生後、マーケットの状況や経緯についてご説明をしております(グループ広報部)すでにアメリカでは同様の金融商品で損失を被った投資家が訴訟を起こしている。「恐怖の商品」を売りつけた代償はいかに。